



No.31 (平成27年)

社会福祉法人 鶴風会
東京小児療育病院・みどり愛育園
西多摩療育支援センター
後援会

— 連絡先 —

〒208-0011
東京都武蔵村山市学園4-10-1
電話042-561-2521(代表)
東京小児療育病院

Eメール tcrh@kakufuh.com

理念

私達は
障害児者の生命機能の維持
向上と生活援助のための誠実に
積極的に取り組み障害児者と
その家族を支援します

1 頁 理事長のご挨拶
2 頁 五十周年記念祝辞
3 頁 平成27年度日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会報告
4 頁 五島達智子鶴風会会長御逝去
5 頁 平成26年度決算報告
6 頁 平成二十七年鶴風会表彰式
7 頁 日本財団より福祉車両の寄贈
8 頁 東京都共同募金会より哺乳瓶洗浄機の寄贈
西多摩だより
後援会だより
平成二十七年新規模採用職員
ご寄付者名簿 オルフェの会 チャリティーパーザー

障害児と音楽

理事長 中里 厚

昨年、鶴風会東京小児療育病院は創立五十周年、西多摩療育支援センターは創立十周年を迎え皆様の協力のもと記念式典が盛大に行われました。有難う御座いました。

半世紀の区切りとして五十周年記念誌には、施設内の各部の現状に加え将来にむけての意見や希望も掲載され、内容の濃い記念誌となりました。

関係した皆様方のご協力に感謝申し上げます。

当施設の今後の大きな課題は築五十年経過し、古くなった病棟や施設の建て替え計画です。しかし今まで苦しい経営状態が続いてきたため、建て替えのための資金の準備がありません。今後この資金をどう捻出していくのか頭を悩ませております。

過日私が唯一つほっとできる日曜日の夕方、近くの知り合いのイタリアンレストランに行きました。御客さんは未だ誰もおらず、ほの暗い店内には静かに音楽が流れていました。「カッチーニのアベマリア」「讚美歌三一二番いつくしみ深き」などしっとりとした歌声に思わず引き込まれ、ローソクの光りの揺らめきでまるで教会に居るような気分になりました。「誰の歌ですか?」と聴いたところテノールの新垣 勉さんのCD「新垣勉の軌跡」ですと教えて戴きました。

レストランのオーナーシェフは「新垣さんは時々この店に食べに来るんですよ」と話してくれました。

新垣さんは沖繩出身のテノール歌手で、一九五二年(昭和二十七年)メキシコ系のアメリカ人と日本人の母の間に生まれました。生後間もなく両目に誤って劇薬

を点眼され全盲になりました。その後父親はアメリカに帰国し離婚、祖母に育てられました。数々の苦難の後、その祖母も亡くなり天涯孤独になりました。

その後彼は人生の生き方に悩んだ挙句、有る日訪れた教会の牧師さんのすすめで声楽家と牧師になることを志しました。三十四歳で武蔵野音楽大学に入学、卒業後数々のチャリティーコンサートや歌手活動を行い、日本バプテスト連盟系の教会の副牧師としても活躍しました。

彼の歌声は日本人に無いラテン系の響きを持ち、その醸し出す教會的な雰囲気は彼が永い間教会の聖歌隊で歌っていたためのものだと思います。

今年沖繩は太平洋戦争の末期に、日本本土の楯となり県民二十四万人の犠牲者が出てから丁度七十年目になります。

そうした沖繩という環境の中で生まれ育った新垣さんの心の中には「戦争」というものが無ければという深い思いが込められているのだと思います。

彼の歌う「サトウキビ畑」を聴くと、他の歌手からは伝わってこない何かがある

ります。

目が見えないため音に対する感覚が優れているという点では、ピアノストの辻井伸行さんも素晴らしい音楽家だと思います。生下時からの視力障害でありながらパン・クライバーン国際ピアノコンクールで優勝し、その後も音楽活動を続けています。母親の辻井いつ子さんの我が子に対する愛情と熱意はどんなものであったか、想像も出来ないほど深い深いものだと思います。

多くの障害者の方達はその障害と真つ向から立ち向かい、それをどう克服しかつその特性をどう引きだすのか、家族、支援者、施設の職員は毎日懸命な努力をしています。

二十七年六月に東邦大学（前身は帝国女子医学専門学校）は創立九十周年をむかえ記念の式典が行われました。

東京小児療育病院を五十年まえに創立したのは、帝国女子医学専門学校の第一回卒業生 龍知恵子先生を中心とする女性医師達のグループでした。

当時同校の学長であった額田 晋先生は、今後女性の社会進出を進めるためには理科系の教育が是非必要であるとの観点から、理科系の総合大学である東邦大学を創立しました。

その中で額田学長は特に「自然、生命、人間」という言葉を強調しています。現代の社会が直面する自然破壊や生命の倫理、人間性の大事さをすでに五十年

前から見抜き予見していたようです。

私達はこの言葉を「この自然界に生命を受けた私達障害児も、普通の人間と同じようにその生涯を全うしたい」という意味に理解しております。

これからも私たち鶴風会は障害児とその家族の支援の為に頑張つて参りますのでどうか皆さま今までと変わらぬ御支援を宜しくお願い申し上げます。

oooooooooooooooooooooooooooo

五十周年記念祝辞

公益社団法人

日本重症心身障害福祉協会

理事長 岡田 喜篤

東京小児療育病院開設五十周年、並びに西多摩療育支援センター開設十周年を迎えられ心からお喜び申し上げます。

昭和三十年代は戦後の混乱期から落ち着きを取り戻しつつありました。重い障害を持つ子供たちへの理解は乏しく福祉の対象から取り残されている状況でした。そうした中、昭和三十一年に肢体不自由児施設・東京小児療育病院として開設されましたが、当時は障害児医療の専門家も少なく試行錯誤の状態であったと推察しております。その後昭和四十五年

には重症心身障害児施設・みどり愛育園を開設、重症心身障害児者の短期入所事業、通所事業や児童デイサービスなどにも積極的に取り組まれるとともに、平成十六年には西多摩療育支援センターを開

設されました。

公益社団法人日本重症心身障害福祉協会が全国重症心身障害児者経営団体連合会として重症心身障害児者の福祉の向上と、その家族の福祉の増収を図るため活動を始めたのも昭和四十年の頃ですが、施設増設を近々の課題としながらも施設職員の確保、職場環境の改善、施設の安定的な経営などに奔走する活動を余儀なくされました。

昭和四十二年には重症心身障害児施設が児童福祉施設として法定化され、障害児福祉に対する一般の理解も深まり施設の増設が図られ療育の内容の充実も図れるようになりましたが、その後も各施設ともに職員の確保と施設の運営に苦慮する時代があったことと推察しております。

そうした状況下、東京小児療育病院が障害児者の様々な支援活動を通し実績を積み、着実な発展を遂げられました。節目である五十周年を迎えられましたことは、これまでの関係者の皆様方の大変なご努力があったからこそ達成できたものであると思います。

現在の障害福祉施策は、どのように重い障害がある人も地域で一般社会とともに生きることが基本とすべきとする考えから、できるだけ家庭で、地域で生活できる体制を整備することが求められています。

しかし、高齢化、重症化で支援の度合いが増し、施設から地域への流れをつくることは、本人の状態、家庭の事情で益々困難となっております。

また、重症心身障害のある人のライフサイクルのあり方が、乳幼児期から青少年

年期を経て大人となり、保護者の高齢化が進んでくると家庭での療育が困難となり施設へ入所を希望する傾向があります。

重症心身障害福祉の施策は在宅支援を基本とするにしても、施設の専門的な療育機能を存続することが必要不可欠です。

重症心身障害児者施設の使命は重症心身障害がある人のライフサイクルに合わせた生涯療育によって出生から成年に達した生涯療育の設計の手助けをする機能を持ち、人権を守り安定、安心に人生を全うできる環境を確保するため、提供する

ために存在することだと考えております。こうした障害児者を取り巻く環境の変化に対応しつつ、今後とも地域から信頼され、期待される東京小児療育病院として、地域に根ざした支援機能を展開され、障害児者の方々ならびにそのご家族のために一層ご尽力いたたくことを祈念しお祝いのご挨拶とします。



島田療育センター・木実谷院長による代読

平成27年度日本重症心身障害 福祉協会全国施設協議会報告

東京小児療育病院

院長 椎木 俊秀

平成二十七年五月十五日から十六日にかけて新潟県湯沢町で平成二十七年日本重症心身障害福祉協会全国施設協議会が開催されました。会議は長岡療育園が担当されました。当院からは私と西藤副院長、八代看護科長、竹内医事課長が参加しました。プログラムの概略は以下の通りです。

千葉リハビリテーション愛育園施設長
③ 東京地区

椎木 俊秀 東京小児療育病院院長

④ 中部地区 小西 徹

長岡療育園園長

⑤ 近畿地区 船戸 正久

大阪発達総合療育センター

⑥ 中国・四国地区 植原 幸二

旭川児童院院長

⑦ 九州・沖縄地区 松葉佐 正

くまもと若北療育医療センター

追加発言 横地 健治 副センター長

聖隷あおぞら療育センター顧問

4、報告事項及び協議

行政説明では今後の障害児支援の在り方について、地域社会への参加・包容（インクルージョン）の推進と合理的配慮、障害児の地域社会への参加・包容を子育て支援において推進するための後方支援としての専門的役割の発揮の二つを基本理念として、地域における「縦横連携」の推進について説明がありました。具体的には児童発達支援センター、保育所等訪問支援、入所施設への有期・有目的の入所、相談支援などを活用し、ライフステージごとの支援、保護者の「気づき」の段階からの支援の推進が強調されました。青写真としてはかなり体系的な形に

まとまって来ましたが、これを実際に行っていくための具体的な実行計画や財政的な裏付けが大きな課題として残っていると感じました。

特別講演ではNICCの置かれている現状が述べられました。日本の新生児医療は世界でも最高レベルで、救命率が上昇し障害なく生活できる児童も増えていますが、重症児も増え在宅移行が進まず、大きな社会問題を引き起こしている現状が報告されました。各病院で在宅移行を進めたり、在宅移行のための中間施設づくりなどが行われていますが、抜本的な解決策は見いだせていない状況が語られました。

シンポジウムでは各地域の優れた実践例が報告されました。私もシンポジウムの一人として報告いたしました。重症心身障害に関わる課題の中でも約三千七百人の長期入所待機者の問題、短期入所が極めて困難な問題、NICUや一般病棟から退院できない患者が多数いる問題が特に重要で解決が困難です。その解決策として今後は長期入所は少なくとも医療ケアのある方中心に受け入れ、空いたベッドを短期入所や病院からの在宅移行支援ベッドとして使用し、医療ケアのない方中心に自宅やグループホームで生活できるように通所、短期入所、訪問診療、訪問看護、訪問介護、グループホームなどのサービスを拡充していく必要があると述べました。なぜなら我々の施設は病院

でもあるので、入所に関しては医療度が高い方を中心に支援し、医療度の低い方はより地域で生活しやすいように支援すべきと考えるからです。まだ医療ケアのない方が多く入所されている施設もあり、いろいろな意味で反響が寄せられました。率直な議論が必要だと感じました。

長岡療育園や大阪発達総合療育センターがNICUや一般病棟からの在宅移行支援を行い、大きな成果をあげている報告や大阪発達総合療育センターが訪問診療も行っている報告は、いずれも当院では行っていない事業だけに特に興味深く聴きました。当院は全国的に見ても重度の方を入所でも外来でもたくさん支援し、短期入所を全国で一番たくさん行い、通所や訪問看護なども積極的に行っていきますが、全国の素晴らしい経験から学ぶことも非常に多いと痛感しました。いろいろな気づきをもたらえた貴重な会議でした。



- 2、特別講演
「post-NICU重症児の在宅医療連携」
埼玉医科大学総合医療センター
田村 正徳 小児科教授
- 3、シンポジウム
「施設から在宅への流れの中で重症心身障害児者施設の現状と今後の展望」
① 北海道・東北地区 林 時伸
北海道療育園園長
- ② 関東周辺地区 石井 光子

五島瑳智子鶴風会会長御逝去



永年 鶴風会の施設運営に多大な貢献をなさいました五島瑳智子会長が平成二十七年八月十三日に御逝去されました。享年八十七歳でした。

五島瑳智子会長は東邦大学の微生物学感染症学講座の教授、同医療短期大学の学長を歴任され、昭和四十六年当施設の理事、昭和五十七年より元理事長の倉島先生を支えて常務理事、平成十六年から第五代目の理事長を務められました。

先生は在任中

- (一)古くなった看護宿舍の改築、保育室の整備
- (二)遅れていた事務会計処理の整備
- (三)病院の地下に会議室、図書室、講演会に使える多目的ホールとしての「桑原ホール」の新設
- (四)大災害に備えた耐震等の対策工事
- (五)スタッフの海外研修、北欧3国への派遣
- (六)看護部の院外研修派遣
- (七)五十周年記念誌の編纂

等多くの事業を積極的にすすめられました。

夜遅くまでの管理者会議、毎年行うバザーやチャリティーコンサート「オルフェの会」の企画、機関紙「はぐくむ」の編集会議など多くの業務を短期間にこなされました。特に五島会長は働く女性の立場から、看護職の地位の向上やスタッフの育成に力をそそがれ、国際的にも中国衛生部看護職との永年の交流など多大な功績を残しております。歴史、音楽、舞踊、美術などあらゆる分野に精通しており、職員は様々な面から訓育を受けました。有難う御座いました。先生の御冥福を心よりお祈りいたします。

おしらせ

東邦大学葬

日時 平成二十七年十月四日(日)
 場所 東邦大学医学部体育館
 住所 東京都大田区大森西
 電話 03(3762)4151
 五〇二十一〇十六

村山鶴風会「偲ぶ会」

日時 平成二十七年十月十八日(日)
 場所 東京小児療育病院
 住所 東京都武蔵村山市学園
 電話 042(561)2521
 四〇十〇一

平成26年度 社会福祉法人 鶴風会の決算報告

社会福祉法人 鶴風会
【資金収支計算書】

区 分	予算	決算	差異
事業活動による収支			
事業活動収入計(1)	4,034,361	4,082,468	△ 48,107
事業活動支出計(2)	3,811,481	3,814,740	△ 3,259
経常活動資金収支差額(3) = (1)-(2)	222,880	267,728	△ 44,848
施設整備等による収支			
施設整備等収入計(4)	750	1,620	△ 870
施設整備等支出計(5)	81,250	80,485	765
施設整備等資金収支差額(6) = (4)-(5)	△ 80,500	△ 78,865	△ 1,635
その他の活動による収支			
その他の活動収入計(7)	0	23,032	△ 23,032
その他の活動支出計(8)	120,000	132,279	△ 12,279
その他の活動資金収支差額(9) = (7)-(8)	△ 120,000	△ 109,247	△ 10,753
予備費(10)	22,380	0	22,380
当期資金収支差額(11) = (3)+(6)+(9)-(10)	0	79,616	△ 79,616

【事業活動収支計算書】

区 分	当年度決算	前年度決算	増減
サービス活動増減の部			
サービス活動収益計(1)	4,244,049		4,244,049
サービス活動費用計(2)	4,242,826		4,242,826
サービス活動増減差額(3) = (1)-(2)	1,223		1,223
サービス活動外増減の部			
サービス活動外収益計(1)	43,059		43,059
サービス活動外費用計(2)	7,737		7,737
サービス活動外増減差額(6) = (4)-(5)	35,322		35,322
特別増減の部			
特別収益計(1)	27,787		27,787
特別費用計(2)	66,690		66,690
特別増減差額(9) = (7)-(8)	△ 38,903		△ 38,903
当期活動増減差額(10) = (3)+(6)+(9)	△ 2,358		△ 2,358

【貸借対照表】

区 分	平成26年度末
資産の部	
流動資産(1)	1,827,264
固定資産(2) = (3)+(4)	4,064,863
基本財産(3)	2,551,172
その他の固定資産(4)	1,513,690
資産の部合計(5) = (1)+(2)	5,892,127
負債の部	
流動負債(6)	431,160
固定負債(7)	1,335,534
負債の部合計(8) = (6)+(7)	1,766,694
純資産の部	
基本金(9)	1,705,794
国庫補助金等特別積立金(10)	808,700
その他の積立金(11)	523,806
次期繰越活動収支差額(12)	1,087,131
純資産の部合計(13) = (9)+(10)+(11)+(12)	4,125,431
負債及び純資産の部合計(14) = (8)+(13)	5,892,125

(単位:千円)
脚注:減価償却累計額 3,747,105

※千円未満切捨てのため一致しない場合がある。
※平成26年度より新会計金に移行したため事業活動計算書の前年度決算を表示していない。

平成二十七年 鶴風会表彰式

平成二十七年六月二十五日(木)に、

本年度の法人表彰式を執り行いました。

本年度は、例年の永年勤続表彰に加え、

施設貢献として、長年に亘ってご協力い

ただいていらっしゃるボランティアの方二名と、

院内委員会の表彰がございました。

受賞者の方々には、日頃のご尽力に感

謝いたしますとともに、引き続きお力添え

を賜ります様お願い申し上げます。

施設貢献表彰

おもちゃ図書館ボランティア 2名

50・10周年記念誌・記念式典委員会

医療安全対策委員会

感染対策委員会

永年勤続表彰

勤続35年

染谷 淳司 理学療法士

勤続30年

米井 幸治 調理師

渡部 幸子 生活支援員

勤続20年

富永 健雄 生活支援員

佐藤 哲也 生活支援員

高橋 直樹 生活支援員

勤続15年

竹内 真一 書記

牧野 道子 医師

児玉 雅巳 理学療法士

清水 智美 看護師

野島 裕美 生活支援員

久保 治 生活支援員

齋藤 工恭 生活支援員

堀越 徳浩 看護師

勤続10年

小坂 美樹 歯科医師

金子 麻衣 作業療法士

小久保 朋 作業療法士

飛田 孝行 作業療法士

大石 七重 臨床心理士

池田 陽子 看護師

齋藤 優子 看護師

小野奈津季 看護師

佐藤 美耶 看護師

竹中 彩子 ソーシャルワーカー

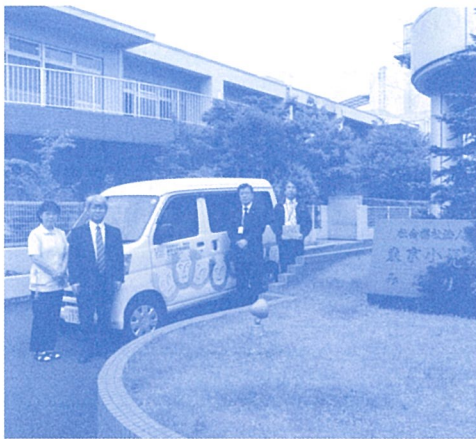


日本財団より 福祉車両の寄贈

公益財団法人日本財団（東京都港区、会長笹川陽平氏）より、平成二十七年三月二十三日（月）東京小児療育病院・みどり愛育園へ福祉車両1台が寄贈されました。車両は軽ワゴンタイプで後部にリフトを装備しており、電動車椅子1台を搭載することができます。

日本財団は設立以来五十年以上にわたり社会をよりよくする活動を推進されてきました。その活動は障害者福祉の他に、防犯や防災の推進、被災地のサポート、伝統芸能の保護、スポーツの普及活動など多岐にわたっています。

添付の写真は、四月三十日に行われた寄贈記念撮影時の一枚で、当日は日本財団より祝電をいただきました。日本財団へ感謝申し上げます。



東京都共同募金会より 哺乳瓶洗浄機の寄贈



平成27年5月26日に贈呈式が行われました。

社会福祉法人・東京都共同募金会を通じて三菱電機ソリューションズ基金から温かい寄付金を頂き平成二十七年四月に哺乳瓶洗浄機が栄養科の厨房に整備されました。

摂食・嚥下機能の低下が進むことにより経管栄養に移行される利用者が年々増加傾向にあります。現在、入所者の約七十五％（百二十名）の方が経鼻経管又は胃瘻、腸瘻増設を行い経管で栄養補給を実施しています。

経管栄養の利用者様が健康に毎日の生活が送れるように栄養科では三十種類以上の流動食、経腸栄養剤、栄養補助食品

西多摩だより

生活支援科長 清水 幸一

先日六月七日（日）に、第十二回西多摩療育支援センター祭が行なわれました。地域の十五他施設が参加して自分たちの作品を模擬店で販売したり、展示を行ったりと盛大に行われました。

メイン会場でのイベントには、八王子東特別支援学校の先生と生徒の保護者による「元氣太鼓」の演奏、ヒップホップグループのダンス、あきる野市吹奏楽団「きららバンド」の合奏に出演していただき、祭りを盛り上げていただきました。今回は、西多摩療育支援センターの楽

（入所）と上代継在宅地域支援センター（通所）での日中活動を紹介する時間をとって、地域の皆様へ発信する工夫をしました。また、ボランティアについては、地元元々の学校で、あきる野市西中学校生徒の皆さんやあきる野市東中学校生徒の皆さん、スクールバスで駆けつけてくれた大川学園医療福祉専門学校生徒の皆さん

を用意し、個々の利用者様の消化管機能や栄養状態を見極めて主治医より食事箋が発行され栄養管理が行われています。この流動食・経腸栄養剤を分注するため毎日千本の哺乳瓶が使用されています。この哺乳瓶を衛生的に洗浄し管理するに

ど、多くの学生ボランティアが参加し、協力していただきました。全体では五百名ほどの参加があり、利用者、保護者、地域の方と交流をすることができました。祭りのテーマである「笑顔がいつぱいの楽しい時間」をみんなで過ごした一日でした。



は哺乳瓶洗浄機の整備が不可欠です。

導入されてからは洗浄能率も高まり栄養科職員一同が感謝しています。今後も、安心・安全な流動食を提供して利用者様の健康管理の支援を担って行きたいと思



社会福祉法人
鶴風会

後援会だより

五十年の思い出の数々

評議員 小川 昭子

創立五十周年記念式典は、多くの方々のご努力で、各人に悲喜こもごもの思いを残して成功裡に終わりました。「はじまりのころ」の紹介の中に尊敬する代々の理事長先生の面影を拝見した時、懐かしさと共に忘れられない数々の思い出が蘇って参りました。その中で心に深く刻まれている二、三の思い出を記したいと思います。

開院間もない頃経営に一番困窮していた時、寄付の依頼がありました。その頃は無医村に近い狛江村で、姉夫妻と開業して日が浅く、分刻みの生活を過ごしていました。「寄付をしたいのは山々ですが、伺う時間がないので」等と生意気なことを申ししまい未だに深く反省しています。その後まもなく、先輩の一人が来宅して下さいました。これは氷山の一角で心身共にお疲れの中、この何十倍ものご苦勞を続けられたらと思うと胸が痛くなり、頭の下がる思いです。

その後、五島先生のご推薦で、評議員

の末席に加えていただきました。理事の先生方や、病院関係の方々いろいろなご指導をいただきながら、微力ですが協力させていた、たいしております。

一年に二、三回伺う編集会議の時、外來の隆盛の様子を拝見し、後輩の先生方やその他のスタッフの忙しく動き回るお姿を拝見し、天国の先生方に喜んでいただけるといふ益々頑張ろうと自分に言い聞かせています。

また、多くの思い出の中に龍先生が三代目の理事長を務められた「脳性マヒ児を守る会」の活動があります。龍先生が脳性マヒ児の早期発見・早期治療のために力を注がれた財団法人 脳性マヒ児を守る会（昭和四十一年）主な活動は、愛の診療・愛のつどい・出張講演・小冊子配付・協賛援助などでした。龍先生は村山の病院経営に努力しながら、三代目理事長としての努めも熟され、その障害児の為の情熱、エネルギー、福祉の心に驚き、感動の極みでした。数人の先輩の先生方と共に、私も「愛の診療」に携わらせていただきました。毎月第三日曜日に、麴町の弘済会館の一室で、心身障害児総合医療センター長の坂口亮先生と社会福祉法人至泉会の大塚隆二先生（ケー・スワーカー）のご指導の下、全国から来診する障害児の方々やその御家族の診療相談、指導に当たらせていただきました。「脳性マヒ児を守る会」も創立二十年を迎えた頃、無料診療の患者数が減少し

始めた感がありました。これは、全国各地の医療、療育指導、施設が充実した賜物と少しほっとしましたが、やがて発展的閉鎖になった時には、不安と淋しさに襲われたことを思い出します。しかしこの診療の経験は、出講した大学での講義の中で、また、市から依頼されて続けているファミリーサポートセンターでの育児学の中で、若い学生さんやお母様方のお役に立っていると確信しております。

最近、超高齢になつてから、加齢現象を感じ、自分の半世紀を振り返ることがあります。開業して五十余年、病児保育開室から二十五年、大きなトラブルもな少くも世のお役に立てたのかと自問自答しながら、あと少し仕事を続けてゆきたいと願っております。



「はじまりのころ」の講演をされる故・五島先生

平成二十七年年度 新規採用職員

平成二十七年四月一日付で二十四名が新たに入職いたしました。一日も早く利用者の皆様のお役に立てる様、励んでまいりますので、何卒よろしく願いたします。

東京小児療育病院 十九名

- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
| 湊 純 医師 | 園田 修作 施設管理 | 石黒 礼華 作業療法士 | 田村久美子 作業療法士 | 牧野恵美子 言語聴覚士 | 浅井 笙子 看護師 | 阿部和佳奈 看護師 | 加賀谷瑠里 看護師 | 外岡 雅敏 看護師 | 根本 藍 看護師 | 早瀬 美沙 看護師 | 日野 香月 看護師 | 松本 美穂 看護師 | 佐藤 久美 生活支援員 | 塚田 直子 生活支援員 | 新澤 美砂 生活支援員 | 横山 昌弘 生活支援員 | 澤渡 美保 生活支援員 | 松尾 里織 院内保育士 |
|--------|------------|-------------|-------------|-------------|-----------|-----------|-----------|-----------|----------|-----------|-----------|-----------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|-------------|
- 西多摩療育支援センター 五名
- | | | | | |
|----------|-------------|------------|-------------|-------------|
| 谷川 仁美 医師 | 佐貫 志妃 理学療法士 | 清末 淳 生活支援員 | 後藤 拓也 生活支援員 | 佐藤 雅典 生活支援員 |
|----------|-------------|------------|-------------|-------------|

鶴風会後援会へご寄付者ご芳名

平成27年1月〜平成27年6月

160名(五十音順・敬称略)

- 青木りう子・浅島 裕雄・朝山 浩行
- 足高 毅・東 恵子・足立 嘉子
- 阿部 正和・安部 良治・新井 恒子
- 石北 壽子・石田 哲朗・石見 徹夫
- 伊藤 元博・猪俣賢一郎・内ヶ崎仁子
- 海野 俊雄・梅田みほ子・江川 惠基
- 大久保陽一郎・大島 眞理・大塚 慶子
- 小原 明・小原 桂子・小原 該一
- 加藤 葉子・金森 勝士・金子稜威雄
- 金子 晴生・釜范 登志・河村 康明
- 河村 裕子・菅野 壽子・木内 徹子
- 北原 信三・鬼頭 秀明・木村 裕
- 木山 博夫・久保 初美・倉根 理一
- 黒木 貴夫・黒瀬 嘉幸・小泉 美子
- 幸田 文一・古賀美津子・小竹原安見
- 小竹原良雄・後藤加寿美・小林純二郎
- 小林 令明・小峰由美子・西條 公勝
- 齊藤 眞一・齋藤 登・齋藤 則善
- 齋藤 勝・櫻井 昌弘・佐地 勉
- 佐藤 中・佐藤 重雄・佐藤 俊郎
- 澤井 寛人・塩野 則次・獅山富美子
- 志島眞理子・島田 敏雄・嶋田 寛子
- 島野 光・清水 一輝・清水 友里
- 杉 薫・杉本 寛子・杉山 卓哉
- 杉山 尚子・鈴木カツ子・鈴木 秀明
- 須田百合子・千 哲三・高木 利明
- 高月 誠・高橋比路美・武居 正郎
- 田中 政信・谷口 利江・谷野 徹

- 田原 久子・田部 秀山・塚越 実
- 月花 亮・辻本公美子・堤 俊一郎
- 土井 淑江・長岡 貞雄・長澤 貞継
- 中園奈津子・中谷 尚登・中野 重徳
- 中村 映子・中村 豪・中村志津子
- 中村 豊・並木 温・西宮 常代
- 根本 暁・延島 幸子・野沢 明子
- 野村 直子・橋口 玲子・蜂矢 正彦
- 蜂矢百合子・早川 浩市・原田千鶴子
- 原田 孝・原田 則雄・原田裕美子
- 樋口志津子・土方 淳・平田 徹
- 平山玖美子・福井 卓也・藤田よし江
- 星 北斗・本間 義章・前畑 安宏
- 牧 昭夫・牧 三樹子・松尾多希子
- 松島 英乃・松原 龍弘・松本 英亜
- 丸山 和子・水落 笙子・水野 孝子
- 三宅 三・宮崎 元伸・宮代 英吉
- 向山 和代・向山 徳子・向山 秀樹
- 武者 芳朗・村川 公一・村川世津子
- 森 克彦・森 紘子・盛川 洋一
- 矢野さゆり・矢野 春雄・山川ふみ子
- 山口 美穂・山崎 公子・山下 育子
- 山下 香澄・山田 輝代・山村 憲
- 山本 温子・山本 高裕・横田 卓史
- 吉見 梓・龍 倫之介
- セントラル病院
- 桜蔭学園同窓会 晁桜会

社会福祉法人鶴風会へご寄付者(芳名)法人団体個人

平成27年1月〜平成27年6月

37名(五十音順・敬称略)

- 阿部美代子・石田 勇・伊藤 芳子
- 海老原明次・大塚 周二・大塚 ミヤ
- 小川 昭子・上岡 謙夫・菊地 由美
- 櫛田 明美・越野 誠一・齊藤 雅彦
- 佐藤 明子・佐藤 清子・清水美津子
- 鈴木 康之・高橋 孝彦
- 竹内眼科クリニック 竹内忍・田中 哲
- 鶴岡 広・濱中知恵子・舟橋満寿子
- 細澤 裕子・眞瀬きよみ・森田 英雄
- 守田 洋・山田耕一郎・吉川 芳登
- 川向 司・川田 友・中里由理枝
- ㈱エクセル・サービス
- 八王子建物管理㈱
- 日の出町手をつなぐ親の会 会長 高橋栄子
- 東京小児療育病院
- みどり愛育園父母の会
- NPOわらべ 理事長 濱中知恵子
- 社会福祉法人 鶴風会後援会

寄附物品

平成27年1月〜平成27年6月

- 加園 勝男・大鰐町農業青年会議
- 日本出版販売㈱・日本児童図書出版協会
- 一般社団法人 東京馬主協会・吉間加代子
- コストコホールセールジャパン㈱入間倉庫店
- 川向 司・川田 友

チャリティーコンサート
～オルフェの会～

とき 平成27年12月6日(日)
会場 11:30
開宴 12:00
ところ 新高輪プリンスホテル
出演 エーデルワイスカペレ
会費 25,000円

お問い合わせ
総務部 TEL 042-561-2521

チャリティバザーのお知らせ

開催日 平成27年10月25日(日)
11:00~15:00
会場 東京小児療育病院院庭

チャリティーバザーでは、10月中旬までご寄贈品を受け付けております。
ご協力をお願いいたします。
イベント・作品展・模擬店など企画しております。
皆様のお越しを心よりお待ちしております。

お問い合わせ
総務部 TEL 042-561-2521